

第4回 秋田市北部地区公共交通研究会議事要旨

1 日 時 平成19年11月22日(木) 午後5時30分～午後7時00分

2 場 所 北部公民館 2階大会議室

3 次 第

(1) 開会

(2) 議題

本格運行の運行形態案について

(説明資料)

実験運行で抽出された課題について

資料1

課題の整理について

資料2

運行路線図

資料3

乗継箇所について

別添資料

説明会開催の協力について

(説明資料)

説明会の開催について

資料4

その他

(3)閉会

4 出席委員

(1)奈良委員

(金足地区振興会副会長)

(2)鎌田委員

(下新城地区振興会会長)

(3)永田委員【会長代行】

(上新城地区市民協議会会長)

(4)白岩委員

(上新城地区市民協議会副会長)

(5)宇佐美(正)委員

(老人クラブ連合会北部地区社会福祉委員)

(6)古木委員

(上新城小PTA会長)

(7)菊地委員【会長】

(飯島商工振興会会長)

(8)児玉委員

(秋田中央交通株式会社営業部長)

(9)菅原委員

(秋田市都市総務課交通政策室長)

(アドバイザー委員)

(1)木村委員

(秋田大学工学資源学部教授)

(2)大滝委員

(秋田運輸支局首席運輸企画専門官)

5 欠席委員

(1)古井委員

(金足地区振興会会長)

(2)宇佐美(農)委員

(下新城上小友町内会会長)

(3)富樫委員

(秋田北中PTA会長)

(4)小野委員

(金足西小PTA会長)

(5)加藤委員

(追分商店会会長)

(6)佐藤委員

(秋田県ハイヤー協会専務理事)

6 事務局出席者

工藤交通政策室長補佐

池田交通政策室主査

7 議事要旨

- 司 会 | それでは、次第に従って、進めていく。
さっそく議事に入るが、規約により、会長が議長を務めることになっているので、会長から議事進行をお願いする。
- 議 長 | これから、皆様のご協力を得ながら順次進めさせていただきたいと考えている。
それでは議事に入る。本格運行の運行形態案についての説明をお願いする。
- 事 務 局 | (資料1～3と別添資料を説明する)
- 議 長 | 以上の議事についての質問、意見があればお願いする。
- 委 員 | 上新城コースの接続について、説明では外旭川方面を通る路線バスと接続することであるが、上新城地区には冬期間、土崎駅からJRを利用して利用している高校生がいるが、困ることにならないのか。
- 委 員 | 将軍野線では土崎駅方面に行けないのか。
- 事 務 局 | 将軍野踏切付近で下車すれば、徒歩で10分程度で土崎駅に着くと思う。
それでは、現在運行しているバス路線について説明する。
組合病院を出発する路線は4コースある。
まずは、外旭川旭野線、これは外旭川、天徳寺前を通過して秋田駅まで行っている路線である。
次に、将軍野線、これは自衛隊前を通り、新国道または寺内・市役所を經由して秋田駅まで行っている路線である。
3番目は、土崎駅前行き、これは自衛隊前、JR土崎工場を通過して土崎駅前行っている路線である。
最後は、現在の上新城線である、これは飯田街道を經由して土崎の本町通り、新国道を通過して秋田駅まで行っている路線である。
どの路線に乗り換えてもいいが、朝はバスの運行本数が多いので、ほとんどの路線へも短時間で乗り換えが可能であると思うが、日中は1方面へしか接続しにくいことになると思う。
短い接続時間で接続させようとするのが、秋田駅前まで一番安く行ける外旭川経由とするものである。
- 委 員 | 今までは、土崎駅入口で下車して歩いていたのが、駅正面へ行けるようになるし、中央高校への通学は便利になる。
- 委 員 | どの時間帯も接続させることは困難であるが、今後、市が検討したタクシ - の予定運行時刻を示していただき、バス時刻の調整を早急に検討したい。
なお、現在の上新城線にあたる飯田街道方面への便は、現在の半分程度とする予定である。
また、土崎駅行きの路線においては、駅で電車の発着時刻に合わせる必要もあり、難しい作業になると思う。
起点を飯島北から飯島二区に変更することであるが、乗合タクシーが待機する場所を決めているのか。飯島北で待機することにはならないのか。
- 事 務 局 | 待機場所は現時点では未定である。飯島北で待機するとした場合、一旦戻ることになるので、それはないものと思う。
- 委 員 | 地元の要望が多岐にわたり、全部聞き入れると結果的に増車しなければならなくかもしれないので、サービス水準をどの程度に設定するのか、早急に決める必要があるのではないのか。

事務局 基本的にはジャンボタクシー - を平日3台、土日祝は1台として、利用実態にあった運行をしたいと考えている。

委員 現在の金足西小の通学に関して、鳩崎や小泉地区の児童については、国道7号までわざわざ出してから路線バスを利用しているので、自宅付近から乗合タクシーが利用可能なようにしてほしい。
また、実験運行の際は、組合病院から槻ノ木を通過して黒川や岩瀬方面へ回送したようだが、途中渋滞する場合もあるので、すいている道路を探すなど回送経路を検討したらどうか。

事務局 鳩崎や小泉地区の児童も通学に利用していただきたいのだが、車両が小さいので定員が限定され、また、増車もできないので、現在利用している小学生の実態を調査し、空席が出るようであれば、利用していただきたい。
また、回送経路については、運行事業者が決定したら相談したい。

委員 4月からの運行も実証実験で運行したキングタクシーに決まっているのか。

委員 これから業者決定の手続にはいるので、まだ決定していない。

議長 本格運行の運行形態案は、ほぼ意見が出尽くしたので、次に進みたい。
説明会開催の協力についての説明をお願いしたい。

事務局 (資料4を説明する)

議長 説明会についての質問、意見があればお願いします。

委員 住所ごとに決められていて、指定された場所以外には参加できないのか。

事務局 どこに参加されてもいいし、最後の予備日に参加されても構わない。

議長 この件の質問はないようなので、その他についての質問、意見があればお願いします。

委員 タクシーについても秋田中央交通株式会社で運行した方が、いろいろな面で利用者の利便性の向上につながるのではないのか。

委員 両方のダイヤ編成を1社で作成した方が接続はうまくいくのではないのか。

委員 事業者を選定するにあたり、いろいろな条件がつくので、入札せずに1事業者に限定して契約する考えはない。
事業者の決定方法としては、プロポーザル方式で実施したいと考えている。
この方式は、ある程度の条件を与えて、自己PRさせる方式なので、応募事業所の運行に対する積極的な姿勢などを考慮して選定できるので、適切な方法であると考えている。

委員 運行事業者には、地元の利用者が満足できるように、的確な指導をお願いしたい。

委員 承知した。

委員 先ほどの西小学校児童の通学の件であるが、できてもできなくても早めに連絡してほしい。

事務局 先程の説明会とは別に、地区内に6校ある小・中学校にも同じような時期に説明に回りたいと考えている。また、事前に学校にアンケート調査をして、利用人

数を掌握してからの対応になるので、もう少し待ってほしいが、できるだけ早めに回答したい。

議長 ほかに質問はないようなので、事務局から発言を許します。

事務局 ここで、今日の検討結果について確認したい。
運行形態は、デマンド型式の乗合タクシーとし、需要がない場合には運休したい、ゾーン制の運賃とし、乗継割引制度を採用する。
使用可能な乗車券は、福祉特別乗車証とゆうゆう券とし、定期券、回数券および乗り放題乗車券は使用できないこととする。
事業計画として、金足コースと下新城コースの起点は飯島北から2停留所南にある飯島二区へ変更したい。
使用車両は10人乗りジャンボタクシー3台とし、予備車両としてセダン型のタクシーとする。
各コースとも実験運行の運行本数とし、乗継拠点で路線バスと接続を図るものとして、中央交通と時刻のすりあわせをして1月までには確定したい。
接続便としては、上新城コースの接続は外旭川方面、その他2コースは新国道経由としたい。
運行開始日は平成20年4月1日としたい。
話は変わるが、運行車両に愛称の募集をしたいと考えるのが、いつ頃で行うこととすればいいのか。
参考までに、西部路線は運行してから、翌1月に地元の小・中学校に募集して、4月から、「豊浜ふれあい号」と命名した経緯がある。

委員 運行車両に命名する必要があるのか。

事務局 ここら辺で有名なのは、雄和循環バスに命名されているユーグルである。
ユーグルと言えば市民がほとんどわかることである。
各コースを混合して運行するので、コース別ではなく、北部路線全部で1個としたいと考えている。

委員 親しみを市民から持ってもらうとすれば、命名した方がいいと思う。
また、1台の車両が金足に行ったり、上新城に行ったりするのであれば、全体で1個の命名でいいと思う。

事務局 ちなみに、西部路線の場合には、地元の小・中学校を対象として募集したが、高齢者から幼児まで居住者全員を対象として募集しても構わない。
また、今後、研究会の開催は運行までの間に1回を予定している。

委員 次回を早めに開催して、決定したらどうか。

委員 命名は、地元住民に乗合タクシーをPRする目的にもなる。

委員 事務局に一任する。

委員一同 (賛成する。)

委員 プロポーザル方式は、応募事業所の特徴をアピールできるので、いい方法と思う。しかし、事業者は金額を安く請け負った結果、安全運行がおろそかになることにつながるのでは、無理をしてほしくない。

議長 以上をもちまして今日予定していた議題はすべて終了した。

以上

東北運輸局主催 「秋田市における地域交通再編プロジェクト委員会」概要

- 1 日 時 平成19年11月22日(木) 午後4時00分～午後5時30分
- 2 場 所 北部公民館 2階和室
- 3 次 第
- (1) 開会
 - (2) 議題
実証実験の結果および検証について
実験結果の考察について
その他
 - (3) 閉会
- 4 出席委員
- (1)奈良委員 (金足地区振興会副会長)
 - (2)鎌田委員 (下新城地区振興会会長)
 - (3)永田委員【会長代行】(上新城地区市民協議会会長)
 - (4)白岩委員 (上新城地区市民協議会副会長)
 - (5)宇佐美(正)委員 (老人クラブ連合会北部地区社会福祉委員)
 - (6)古木委員 (上新城小PTA会長)
 - (7)菊地委員【会長】 (飯島商工振興会会長)
 - (8)水野委員 ((社)秋田県バス協会専務理事)
 - (9)児玉委員 (秋田中央交通株式会社営業部長)
 - (10)保坂委員 (秋田県建設交通部建設交通政策課上席主幹)
 - (11)菅原委員【代理:工藤補佐】(秋田市都市総務課交通政策室長)
- (アドバイザー)
- (1)木村委員 (秋田大学工業資源学部教授)
- 5 欠席委員
- (1)古井委員 (金足地区振興会会長)
 - (2)宇佐美(農)委員 (下新城上小友町内会会長)
 - (3)富樫委員 (秋田北中PTA会長)
 - (4)小野委員 (金足西小PTA会長)
 - (5)加藤委員 (追分商店会会長)
 - (6)佐藤委員 (秋田県ハイヤー協会専務理事)
- 6 事務局出席者
- 東北運輸局 藤沢交通企画課長補佐
" 秋田運輸支局 大滝首席運輸企画専門官
ほか

7 議事概要

- 事務局 「(1)実験運行の結果および検証について」を説明する。
- 事務局 (報告内容について)
上新城地区の状況はどうであったのか。
- 委員 実験運行の際に上新城地区では、地元のバス利用者で、「予約を入れるのがおっくうだ。」と言っていた人がいた。共通語とか方言とか、いろいろな言葉があり、話し相手が他人であれば、「電話をかける際に気構えてしまうのでいやだ。」とのことであった。「それはよくないことだ、この実験は、乗合タクシーを試してもらうために実施したものであるので、是非体験してみたら。」と説得しても、結果的には利用しなかったようだ。
- 事務局 下新城地区ではどうであったのか。
- 委員 状況は同じである。近所で利用者した人の感想を聞いてから対応しようと考えている人も多かったようだ。そのため、本格的に運行した際は、この程度ではなく、もっと利用者は増えるだろうと思う。
- 事務局 金足地区ではどうであったのか。
- 委員 状況は他の2地区と同じと聞いている。当地区の会長は、下新城小学校の児童が学校から中野地区まで下校する際に同乗したので、長時間の乗車となってしまったと言っていた。また、町内の道路が狭い岩瀬地区では路線バスが町内の中心部まで入っていないので、自宅付近から乗れるタクシーは好評であったと聞いている。
- 事務局 ほかの2地区では子どもの利用者がいるのに、なぜ上新城地区ではないのか。
- 委員 現行の路線バスでも利用していない。朝は、ほとんどの家庭で通勤途上に親が学校まで送っているためである。現在は通学する時刻とバスが運行している時刻が合わないので、タクシーの運行時刻を合わせていただければ利用するかもしれない。
- 委員 下新城地区でも、朝は、ほとんどの家庭で通勤途上に親が送っているため、現在は帰りしか路線バスを利用していない。
- 事務局 「(2)実験結果の考察について」を説明する。
- 委員 (考察内容について)
現在上新城線では、地区住民が通院している個人医院のある飯島の長野下丁バス停まで乗り換えなしで行けるが、今後は組合病院で乗り換えとなる、高齢者で乗り換えが大変なので、乗合タクシーを現在のバス路線エリアまで延長運行するためには、バス事業者の占有権があるためできないのか。
- 事務局 バス事業者と調整がとれれば、可能であると思う。
- 委員 今後、上新城コースの乗継拠点になる組合病院で下車するのは通院者だけではない、土崎地区に建設する市民サービスセンターまで路線を延長してほしい。一方の乗継拠点である飯島北はバス停が2箇所ある問題や暖房やトイレなどがない問題などいろいろな点で拠点としてふさわしくない。
将来的な展望を持って事業をすすめてほしい。
- 委員 市民サービスセンターの敷地内にバスターミナルを設置するかどうかを所管課

で検討していると聞いている。

秋田市 センターまで延長するかどうかは、竣工までに検討する必要があると思う。

委員 現在の金足西小の通学に関して、鳩崎や小泉地区の児童については、国道7号までわざわざ出てから路線バスを利用しているので、自宅付近から乗合タクシーが利用可能にしてほしい。

秋田市 現在、通学のため乗車している浦山・岩瀬地区の利用状況を見ながら、今後検討していきたい。

委員 利用者が増加すれば、乗り残しが発生する可能性があるので、台数の確保には注意してほしい。

事務局 一回ですばらしいものはできない、運行しながら修正していく点も出るのではないのかと思う。今後の日程はどう考えているのか。

秋田市 来年早々に事業者を決定するため、今年の内には手続きに入りたいと考えている。

委員 山形県川西町など他都市で成功している例があるので、やれることは何なのか、がまんでできることは何なのかをはっきりするため、話し合いながら結論を導く必要があるのではないのか。

事務局 以上をもちまして今日予定していた議題はすべて終了した。

以上